きゅうり これからの管理

昨年から冷え込みが早かった分、促成・半促成においては果実肥大不足をはじめとする生育不良が多く見られ、特に低地温の圃場につきましては、根の動きが鈍くカンザシ症状が予想されます。２月になりますと日照時間も長くなり、生育不良等の改善も見られてきますが、まだまだ外気温は低いので、地温確保を前提にしっかりと温度管理を行っていきましょう。

① 温湿度と生育

厳寒期は温度を十分に確保する必要があります。午前中のハウス蒸しこみによる温度確保が地温等の確保へとつながっていきます。ただし、温度確保を行っても土壌中に水分・肥料がないと根から吸収するものがないので、高温管理を行なう場合はしっかりと潅水・追肥を行いましょう。

温度不足　　⇒ 果実肥大及び生育が抑制される

湿度が多い　　⇒ 葉からの蒸散量が減少する

地温が低い　　⇒ 根からの水分・養分供給が抑制される

日照時間が少ない　⇒ 光合成が抑制され、養分供給が減少する

② 促成及び半促成きゅうりについて

今期作の場合は、カンザシ症状が通常よりも早く発生する可能性が考えられます。力枝の伸び・生長点の状態には十分注意し、摘果・遮光作業を確実に行っていきましょう。逆にまだ力枝の伸びに勢いがある場合には、陽射の強い時間帯のみの遮光を行って下さい。夕方は少し冷やしてから閉め込みを行って下さい。

地温確保が低いと果実肥大・生育に影響が出ます。しっかりと確保するようにしましょう。

土壌中の肥料濃度が高すぎても力枝の伸びは抑制されます。葉色が濃くツヤがない場合は肥料を控えめにし状態を見ながら追肥を行いましょう。

１日を通して晴天時での外気温が高く、ハウス内の温湿度が抜けきらない状態が出てくれば妻面の換気を考えて下さい。

潅水については日が長くなってきますので、徐々に増やしていきましょう。肥料切れをなくすためこまめに追肥を行って下さい。また、草勢維持の為葉面散布を行いましょう。

草勢維持対策　液　　肥：アミハート　２～３ﾘｯﾄﾙ/10ａ、新ＲＢパワー　３～５ﾘｯﾄﾙ/10ａ
葉面散布：ベストⅡ　500～1000倍、パワフルグリーン２号 500～1000倍

③ 早熟きゅうりについて

定植前には定植後の活着のことを考え、充分な地温と土壌の水分を確保しましょう。特に切り上げから定植までの期間が長い方につきましては、注意してください。

定植後液肥をやっても葉色が乗りにくい場合や、芯の伸びが悪い方につきましては早めのベットマルチも考えて下さい。

親枝の雌花開花が早いようであれば側枝の発生を考え、摘果の徹底を行いましょう。また親枝の摘芯位置の検討をお願いします。

④ 追肥について

地温が低い場合を想定すると、遅効性よりも速効性の肥料の方が効きが早く見えてきますので、葉色を見ながら施用していきましょう。定期的に速効性の肥料を挟んでいくのも良いでしょう。

⑤ 病害虫について

つる枯れ病の発生が多くなる時期になります。防除の際には薬量を増やし、しっかりと散布して下さい。

春先に向けた害虫対策として再度ハウス周辺及びハウス内の雑草対策を行って下さい。粘着板も粘着部分がないようであれば取替えを行って下さい。また、外からの飛び込み対策として設置枚数を増やすことも考えましょう。

徐々に加温機の稼働時間も短くなってきます。害虫ばかりではなく病気の予防対策も行って下さい。薬剤のローテーション防除に努めましょう。

黄化えそ病対策をしっかりと講じましょう

黄化えそ病の発生は半促成への発生へとつながっています。まだ２月は外気温も低く外からの飛び込みはありませんが、３月に向けて徐々に飛び込みの可能性は高まってきます。ハウス内外の除草対策はしっかりと行っておきましょう。

発病株の早期発見・抜根を行う事により被害株の拡大はかなり抑えられます。ただし、いくら早期抜根を行ってもスリップスの防除ができていないといけません。スリップス防除もしっかりと行いましょう。

春先の害虫対策に向け、２月下旬には再度ハウス周辺及びハウス内の除草徹底を行うようにして下さい。

春先の対策は、夏場の害虫対策につながっていきます。終了後の蒸し込み管理の徹底を含めしっかりと防除を行って下さい。

果樹園の管理（２月）

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。２月の果樹園の管理は以下の通りです。

１.かんきつ類全般

１）土壌改良

果実の品質向上、干害、寒害などの気象災害に強い樹にするため、土作りを行います。

①石灰類を投入し、土壌の酸性度を適正にします。（柑橘の目安：５．５～６．５）

②有機質投入により、土壌を柔らかくして、表層根を多くします。

（堆肥等を主体に、ばらまかずまとめて置きます。２ｔ以上／10ａ）

２）剪定、縮間伐

密植園では、樹幹上部しか光が当たらず、樹内部の葉が無くなり、枝が立ち貧弱な樹となります。さらに、果実肥大や品質が劣り、結果層が上部に集中するため収量が低下し、防除や収穫の作業も大変になりますので縮間伐が重要となります。また、内部まで光線が入る様な剪定も大切です。

３）病害虫防除

ミカンハダニは、近年抵抗性獲得が早く、有効な薬剤が少ないので、この時期にきちんと防除しましょう。

病害虫名	使用薬剤	使用倍数
ハダニ・カイガラ類	ハーベストオイル	60～80倍

（樹勢の弱った樹には厳寒期の散布は避け、３月の発芽前に散布しましょう。）

２.日向夏の管理

１）収穫準備

・本格的な収穫が始まる前に園地内の片付け、除草等を実施し、収穫時の作業効率を上げましょう。
・階段畑については、のり面の点検を行い、安全に収穫が行えるようにしましょう。
・収穫機の点検を実施し、効率的に収穫作業が行えるように準備しましょう。

２）病害虫防除

・まもなく収穫期となるので、防除は極力行わないようにします。
・防除を実施する場合は、使用基準を厳守して下さい。

※農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数、散布量等）を守って使用して下さい。

連絡先……生産指導課　電話　７７－２２１６

露地野菜生産者のみなさまへ

毎日寒い中での管理作業、お疲れ様です。春作の作付け時期になりました。年々天候が不安定になり作付けの計画や準備が難しくなっています。極端な寒暖の差や乾燥・曇雨天続き等不順の天候が予想されますが、天候に応じた管理作業を行って下さい。また、収穫期が梅雨時期にかかる品目もありますので、排水の良い圃場を選び、排水溝を設けるとともに、排水口を作るようにして下さい。

しばらくは寒さも続き、体調を崩し易い気候が続きますので、体調に留意して管理作業に励んで下さい。

［今後の管理について］

・白ネギ・

気温が低く、軟白しにくい状態が続きますが、こまめに土寄せを行うようにし、軟白部分を多くするように心掛けて下さい。

気温が高くなると、とう立ちし易くなるため、収穫遅れのないよう出荷に心掛けて下さい。

・人　参・

収穫・出荷後、貯蔵中の腐敗が多いため、収穫を行う際は、雨上がり直後や土壌が湿っている場合は控えて下さい。発病・枯死した葉等は可能な限り圃場外で処理して下さい。

・春バレイショ・

種芋は30～40ｇ前後に切り、乾燥させて植付けを行って下さい。植付け後の湿害により種芋が腐敗することもありますので、排水の良い圃場を選び、必ず排水溝と排水口を設けるようにして下さい。

保温資材やワラなどをマルチの上にかけておくと防寒対策になります。

・水田ゴボウ・

収穫が遅れると、ス入になり易いので注意をお願いします。また、出荷後のクレームに、『菌核病』がありますので、収穫時は傷つけないよう丁寧に取扱って下さい。土はなるべく落としてから出荷して下さい。

・施設人参・

トンネル栽培では生育が不揃いになり易いので地温とトンネル内温度を適温に保つようにして下さい。発芽後は、25～28℃で管理し、30℃以上になったら換気を行って下さい。換気の遅れは裂根の原因にもなります。

トンネル内は暖かく、害虫の発生も予想されますので、除草を行う等、発生を抑制する対応を行って下さい。

・千切大根・

品質維持のために、出来た製品は早めに出荷して下さい。異物混入が問題になりますので、乾燥、袋詰めの際は十分注意をお願いします。異物の主なものは洗い機のブラシ、わら、紐、木の葉、ビニールシートの破片、髪の毛等です。大根の調整もしっかり行って下さい。

・レタス・

レタスは５℃以下で生育停止、0.4℃以下で凍害になります。トンネル栽培をしている圃場では、気温が低くなるので、パオパオなどの保温材をトンネル内部に被覆すると凍害を防げます。日中は

気温が上がるため、パオパオは除去し、25℃以上にならないように温度管理を行って下さい。
　近年、２月は日中が暖かいことが多く、暖かい日が続けば、害虫の発生が考えられます。出来るだけ予防的な薬剤散布を行って下さい。発生後の防除は品質低下になります。

・ブロッコリー・

　８～９月の乾燥と低温傾向により、全体的に生育は遅れ気味になっています。出荷規格に合わない場合もありますが、収穫遅れによる品質低下を防ぐため、適期の収穫を行って下さい。
花蕾の表面が黒っぽくなっているものは収穫後に腐敗します。出荷前に、担当者と相談して下さい。

・加工用ほうれんそう・

　寒さが続き、生育の鈍い状態ですが、降雨後の気温の上昇と共に伸びますので、２月下旬頃にはパオパオを除去して下さい。掛けたままではベト病が発生し易くなります。

・病害虫対策・

　ハウスやトンネル内など、暖かい場所では害虫の発生が見られます。予防策を必ず徹底するようにして下さい。
　徐々に外気温も上がってきます。日中暖かい日が続くようになれば、外でも害虫の動きが活発になるので、除草等圃場周辺の環境整備も行って下さい。

〇アブラムシ……シルバーテープの設置（反射する光を嫌う性質を利用して寄せ付けない）
〇ダニ・スリップス……茎や葉に付きますが、密度が少なく、作物の草勢が良ければ生育への影響は少ないと考えられます。但し、増え始めると一気に密度が高くなるので、増えてからの防除は困難になります。
〇コ ナ ガ 類……粘着シートを使用し、誘引捕殺して下さい。作物に近い位置に設置すると効果的です。

　作物の生育が思わしくない場合は、土壌分析を行うことをお勧めします。
※土壌分析を行う事により、圃場の土の状態が確認出来、施肥設計や追肥の参考にする事が出来ます。土壌分析は乾燥した土で分析に２週間程度かかりますので早めの提出をお勧めします。提出先は生産指導課又は開発センターまでお願いします。
※作付けを行うにあたり、生産販売契約書に記載されているもの又は栽培計画の中に記載されている資材については、有機ＪＡＳ認定の基準に適合しているかの確認を行っていますので、それ以外の資材を使用する場合は資料の提出をお願い致します。

　収穫・出荷前に栽培管理簿の提出をお願いしていますが、産直・直売所に出荷を行う方は販売課・生産指導課へ提出をお願い致します。開発センターへ直接提出を行うと管理内容の点検が出来ませんので必ず販売課・生産指導課へ提出を行って下さい。

＜お知らせ＞

作付け検討会を行いました。

１月15日（水）平成26年度 春人参作付け検討会　　**１月15日（水）平成26年度 甘藷作付け検討会**

作付け検討会に出席されていない方は、販売契約書の提出を早急にお願いします。
契約作付けに取組みを希望される方は必ず連絡をお願いします。
◎これからの作付け検討会開催予定品目～里芋、白ねぎ